



著者近影

第4コーナーで单身移住！
これからどこへ行く？
未だ分からず！

私の放送人生

第15回
元札幌テレビ放送 (STV)
城下 孝氏



フォーク青年だった21歳頃
(集合写真からAIで再現)

入りました。つたシアトルで短大や大学に有名にな分に変更、今はすっかり有名になつたシアトルで短大や大学に有名にな

私、敢えて特筆すべきことも無い放送屋人生を2019年に65歳で卒業したのですが、幾人かの先輩が勝手に私のことを面白がっているフシがあり、「なにか書くよ」に「という分不相応の命が下り、面映ゆく感じつつ書いておりますどうぞ、しばしの間お付き合いを願います。

いつもヨコ入りの人生

思うに私の放送人生は、ほぼ全てが「ヨコ入り」でした。長い髪をバンバンの『いちご白書』のように切りたくなかった就活時、「社会に出る前にまだ有益な経験をするべきではないのか？」という浅知恵のまま観光ビザで米国に飛び、あらゆる知恵を総動員し、ビザを隣国カナダにて学生身分に変更、今はすっかり有名になつたシアトルで短大や大学に有名にな

入りました。つたシアトルで短大や大学に有名にな分に変更、今はすっかり有名になつたシアトルで短大や大学に有名にな



将来が見えない米国フラフラ時代、音楽仲間と(右が筆者)



『ズームイン!!朝! さっぽろ雪まつりスペシャル』のFD

挙げ句、3年半フラフラした上に卒業証書を手にもせず帰国し、当然そんな輩には正規採用なども無く、ススキノの酒場での英語DJや英会話学校の時間講師を経て、テレビのアルバイトADという「この世の果て」のような仕事に就いたのは1981年、すでに26歳の時でした。罵声とパワハラと睡眠不足と低賃金が横行する当時の業界。しかし、なんだかその世界が好きになってしまい、そのまま『ズームイン!!朝!』という月々金の1時間半、全国の朝を生で結びつつ何かしらの生ネ

タをやるといいう、狂気とも言える番組の「ハシリ」となり、「青函トンネル貫通」や稚内沖の「大韓航空機墜事件」ザユ寝連泊中継などでFDをやりまくり、ほどなく中継Dとなり、しかし、バイトゆえ、組合の関係で名刺には「スタッフ」とだけ書かれるような日々を送っていました。その後、独立系制作プロダクションに入れてもらい、バイト時代を合わせて7年が過ぎ、念願だったギャグ満載の英会話ミニ番組なども作っていたそんなある日、TX系「テレビ北海道」(TVH)が道内5局目の民放として開局することを聞いたのでした。

第五局にヨコ入り入社!

「制作部門は当面採用しない!」
 とのお達しを知りながらもそれを無視して手を上げてみると、STVの複数の先輩からの推挙が頂け、今度はこの局に制作PならびにDとしてヨコ入りでき、創業社員となりました。そうしてここで時間外勤務の記録を作りつつ、再び7年。ですが、いつしかローカル制作でやるのが段々と無くなり、フリーに転身。それが97年のことでした。

なんとSTVから声が!?

そうして4カ月たったある日、AD時代の僕を「イジメ鍛え」ていたSTVの笹原嘉弘氏(後に専務、63歳で逝去)から突然お声がかかり、ここでも「ヨコ入り社員」となりました。それは「俺がSの社員だったらこうするのになあ」。キショウメ!!」などと夢想を続けてから14年後のこと。笹原さんのお声掛けにより想いは実現したのでした。

ちなみにバイトADだった80年代当時のSTVはまだ、炭鉱が作った放送局らしくヤマでのヒエラルキーをそのまま踏襲したような

会社でした。しかし世の中も変わり、中途採用などという、かつてはあり得ない「奇跡」が起きた理由の一つは、冷静に考えるに、当時破綻した北海道拓殖銀行の行き場を失った優秀な銀行マンを局で迎えて戦力補強をしようという流れに乗じた「城下もついでに採用」的なものだったのかもしれない。でも、沢山のSTVの皆さんが「シロちゃんお帰り」と言っ

て下さったのは、さすがに嬉しいものでした。
 以来、制作部、編成部の広報、ラジオ局のDやP、事業部などを経て、総務部では子会社の合併、災害担当や要注意人物対応(結構コワいこともありましたが)などを経験し、2014年から旭川に赴任、5年の間、放送局長を務め、「営業」というものを初体験し、65歳で大好きなSTVを卒業したのでした。

ペジャと僕

さて放送人生、思い出は数々あれど、語らせていただくべき話題は2つあります。

まずはバイトAD時。1984年、共産圏初の冬季五輪がユーゴスラ

ビア(当時)のサラエボで行われ、業界に入ってから3年にも満たない僕にAD兼通訳で現地に行けというお話が! きつと外注の通訳を雇うよりも三脚と機材持ちにも使える城下の方がコスパが良いとSTV上層部が判断したのでしよう。キー局・日テレからのスポーツ担当Pの参加も当時は無く、孤軍奮闘のSTV5人編成、ただし一人はアルバイトの城下という大胆なチームで、懐かしのアンカレッジ経由(一)フランクフルト乗り換えの末、人生初の「共産国」へ入

ったのは夜遅くでした。朝起きて窓外を見ると四つ角に自動小銃を持った警察だか軍隊だかがいて、大いに肝をつぶしました! しかし、やがて互いに「敵意は無し!」と認識し、たばこを交換しつつ、おずおずと交流が始まり、この国の人々は朴訥で愛すべき民なのだと思いました。

その数日後「僕がドライバーです」と登場したのがペジャでした。当時25歳くらい

の一人で、他人に緊張を与えない人懐っこさと天性の優しさを持った若者でした。欧米の曲がこの国にも流れていて、僕たちはよく取材車内でマイケルやポールの新曲などを口ずさみつつ、サラエボの街を移動し、他愛ない冗談で笑い合いました。そのことがどれだけ僕たちSTV取材チームの緊張をほぐしてくれたことでしょう。道

路を熟知し、人々の心にすっと入る温かい性格で、いろんな窮地を救ってくれた。ペジャを、いつしか



ペジャと僕



サラエボ表彰台のSTVチーム。中央がペジャと僕

僕は弟のように感じていました。気がついたら取材車に乗っていた21歳の女の子はゴーガ。ペジャが可愛がつている従妹でした。ベオグラードから来たゴーガと今度3人で、思いつくまま色んなポツプスを喰いつつ、取材は進行。時には緊張もしつつ、「男子500m黒岩勝てず伏兵北沢が銀」とか、「カタリーナ・ビットの東独女性コーチが少し怖い」などを体験しつつ、およそ15日間の取材の日々が瞬く間に過ぎていきました。最後の夜、取材村での夕食に、ペジャを皆で招きました。その夜は僕も彼も別れが切なく、涙が止まらなくなり、それは辛い思いをしました。

そして8年。ボスニア民族紛争に端を発したユーゴ内乱が起こりました。あの時ディスコがあった米国の有名ホテルの前は、今や「スナイパー通り」と呼ばれ、人々が撃たれぬように全力で走り抜けるという驚愕のニュース！そんな中、僕たちは文を交わし合ったのでした。そこには「無力」という言葉しか思い浮かびませんでした。ペジャの新妻は国連軍の空爆の音で流産を経験したことも手紙で知りました。再び時は流れ、ペジャの妻は元気な娘を生み、その娘さんは後年、空手のチャンピオンとなり、僕たち当時のサラエボチームは、名前のラナを「羅奈」と刺繍した黒帯を現地に送ったのも今はいい思い出です。

紛争は実に簡単に起こり、人々は持つ物も持たずに歩いて故郷から逃れる。そんなことが身近で起こるのだという世界の事実を知った出来事でした。人生が終盤に差し掛かる今、サラエボで出会った僕の「弟」にもう一度会ったのが夢の一つです。お互いに老けて正体不明かもしれないけれど、瞳の中は同じはずですよ。

憧れの銀幕のあの人と！

もう一つ忘れられないのが、TVH時代に制作した『北海道キネマ図鑑〜高倉健 冬の旅』です。高倉さんに出演を承諾していただくまでに発案から3年ほどかかりましたが、ついに収録場所の北海道にご本人が現れたのは1997年の2月、「さっぽろ雪まつり」の季節でした。混雑時期であろうと何だろうと、飛行機もホテルも

「健さん卒」があるようで、何の問題も無くその昭和最後の銀幕スターはやって来ました。

しかし、取り巻きのガードはあくまで固く、余計な人間を近づけない空気が漂った4日間。僕は局側のPであるにもかかわらず、全く打合せに参画できませんで



高倉さんの番組撮影を終えて(後列左から二人目が憔悴しきった僕)

た。製作も担当していた大手広告代理店(敢えて名を秘す)と東京の制作会社のPが、僕を近づけませんでした。何故か？きつと必要と思ったことには口を出す僕の性格を知っていて「健さんがいぶかして帰ってしまったら困る」ことでも思ったのでしょうか？僕はご本人と会話をすることが許されない異様な数日間でした。高倉さん

「ご本人はどこ吹く風の体ではありませんでしたが。」

ちなみに高倉さんは「いつ、こんなことをお知りになったのだろう？」「いったい誰から聞いたのだろう？」と思うくらい、撮影や取材のウラ事情を何でもご存知で、驚かされました。と同時に、周囲に200%気を回しながらも日本刀のような鋭い空気を発する常人を超えたその姿は、僕には「閻魔大王のような人」という印象でした。ともあれシカトを受けた僕のPぶりは、後年、親しい友人となり当時このロケにも同行されていた作家、谷充代さんのご著書『高倉健の身終い』（角川新書）にも書いていただいています。こうして高倉さんとご一緒した4日間、大手某代理店と新聞各紙（広報も僕が担当していました）の板挟みに遭い続け、1日に1kg×4日間でトータル4kg、きつちりと体重が落ちました。これを僕は「高倉式ダイエット」と秘かに呼んでおります。

プレゼント好きと聞いていた高倉さんですが、それは僕には無縁のお話でした。ですがある日、ご本人から大判の封書が。きつと

「こいつはこいつの立場で頑張っているんだ」と後から例の神がかり的情報収集能力で察知下さったのか、「城下孝さんへ高倉健」と目立たぬ銀のサインペンで書かれた大判のプライベートの写真と、お手紙が入っていました。そこには「番組が良い評判をいただき嬉しく思います。あなたがして下さったことの足しにもなりません。良ければ写真をご笑納下さい。またいつかご一緒できる日のあることを願っています。高倉押」一文。準備からここまでの数年間を思い、涙がツーツツと流れました。

歩き続けねば倒れる性格！

さて、ノンビリ何もしないことが生来できない僕は、S.T.V退職後、読売新聞の配達を皮切りに北海道大学国際寮の管理人、フランス人経営のリゾート建築事務所

の総務、東京五輪マラソントレーニング場のスタッフ、がんセンターの治験薬の英語データ入力などをコロナ禍のもと続けてきましたが、どれもしつくりと来ませんでした。そんなある日、旭川にほど近い沼田町で、地域おこし協力隊として「映像制作者経験者」

を募集しているという情報が突如ネットで飛び込んできました！

この沼田町という人口3000人を割る、かつて炭鉱で栄えた小さな町は、何故か90年代から僕とご縁がある、優しい空気を持つたとても好きな町なのです。実にびつくりしました。時に人は「運命に導かれる」と言いますが、自分にそれが起こるとは！映像の世界から既に16年も離れていた僕を、沼田町地域おこし協力隊に新設された映像クリエイターとして、沼田町は迎えてくれました。心友であり戦友であり職業婦人(古い!)でもある妻も喜んで後押しをしてくれ、S.T.Vを退職し3年、68歳でこうして札幌と沼田の2拠点生活が始まりました。

久しぶりの映像制作ですが、三つ子の魂百までなのでしよう。構成、撮影、編集、ナレーションを一人で行えるこの時代、かつての経験を生かしつつ、町の話題を公式YouTube にアップしています。昨年はこの町の豪雪対策の素晴らしさをストーリー化したものが、おかげさまで北

海道映像コンテストの地域振興部門の奨励賞をいただき、多少ほつとしていたところ。今は、ただただ少しでも沼田町を訪れる人が増えるよう、良き映像を作り続けてゆく所存です。

お楽しみはこれからだ！

さて、先輩諸氏が「私生活も書け」とおっしゃっている。まずは知らず知らずのうちに「なんちゃってジャズ・シンガー」になつて25年。2011年にはスタンダ



超絶ウクレレプレイヤーで、元・子供ばんどの勝誠二さんと沼田のライブで

ード・アルバムを一枚リリースしました。今は日曜大工ならぬ「日曜シンガー」で時々唄う程度ですが、声を通じて「気」のようなものがお客さんに伝わる瞬間が好きです。

次に楽しんでるのは英語通訳。2013年に札幌特区通訳案内士の一期生として認可を受けました。つい先日は、米国に住むインド夫婦2組の札幌ツアーに同行し、ハラールどころじゃない食事の選択に苦労しましたが、実に楽しくご一緒できました。このあたりは過去の米国在住経験や幾度も取材で出かけたいろんな国での経験がベースになっているのでしよう。ありがたいことです。



2024さっぽろ雪まつりで
インド人をガイド

次にラジオ局時代に番組を通じて覚えた「ニシン漬け」の調理。僕のこの漬けものはいっしょか友人知人間で徐々に評判となり、

札幌では「城下のニシン漬けを食べる会」が毎年、年末近くに開かれます。



城下製のニシン漬け



僕のニシン漬けを食べる会

漬けるようになって十数年、僕の数少ない誇れるものの一つにな

り、東京の知人数人にも送り、年末に楽しんでもらっています。

最後に

ふと振り返ると、パワハラや、視聴率の一喜一憂で過酷な精神状態が続いた日々も長くありました。不摂生によつて持病も与えられました。ですが今、心優しい人々とストレス・フリーで沼田町に暮らし、清冽な空気と美しい夕陽の下で日々を過ごしていると、駆け抜けてきた放送屋としての時代があつてこそ今の暮らしをいただけたのだと、感謝の気持ちで胸が熱くなります。



沼田の夕日

お読みいただき誠にありがとうございます。うございました。

城下 孝 職歴

(しろした・たかし)

1982(昭和57)年4月

札幌テレビ 番組契約スタッフ

1984(昭和59)年8月

コールツプロダクション入社

1989(平成元)年

テレビ北海道入社

報道制作部と編成部に在籍

1996(平成8)年

札幌テレビ放送入社

テレビ・ラジオ制作部門、編成

広報、事業、総務、旭川放送

局を担当

2019(令和元)年

退職

2022(令和4)年

北海道沼田町

地域おこし協力隊着任

映像クリエイト推進員として

活動中